

評価委員会総合評価

研究課題名：地殻変動観測による火山活動監視評価と噴火シナリオの高度化に関する研究

評価委員

委員長：古川信雄

委員：小泉尚嗣、田中正之、渡辺秀文、泊 次郎

評価年月日：平成 25 年 9 月 25 日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 ☐ 継続 ☒ 新規課題に移行 ☐ 中止
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☐ 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、伊豆大島他いくつかの火山の地殻変動観測データの解析をもとに、地殻変動源の推定と火山活動評価の事例研究を実施し、多様な地殻変動観測を活用した火山活動のモデリング、噴火シナリオの定量化、地殻活動データから山体内の圧力源の時空間変化をリアルタイムで監視・評価することを目的としており、中間評価段階として十分な研究成果を得ていると評価する。

一方、研究の進捗とともに火山活動に伴う地殻変動が火山毎に異なっていることが明らかになってきた。したがって、地殻変動観測に基づいてマグマ活動を評価し、噴火シナリオを作成するためには、多様な火山活動の総括的な研究によりマグマ供給系の特徴を類型化し、それぞれに適した火山活動評価手法の開発が必要である。また、地殻変動観測は、火山性地震動観測と並ぶ火山活動を監視評価するための重要な手段であり、火山体内部でのマグマの動きを高精度で推定できる可能性を持っているが、その手法はまだ開発段階であり、関連手法の早急な開発が求められている。

以上を踏まえ、本課題については、噴火準備過程の全容解明には到っていないことや噴火等の異常現象が近年観測されていない火山も監視対象となっている点を考慮し、新規課題に移行のうえ継続すべきである。

なお、得られた成果のうち完成段階にあるものについては、論文として逐次公表して欲しい。